高度咬合医科学特論（玉置勝司）

Advanced Course of Special Discussion of Advanced Occlusion Medicine
(Katsushi Tamaki)

キーワード

① 補綴装置
② 咬合違和感
③ 脳機能活動
④ 自律神経活動
⑤ 心理テスト

授業概要

咬合状態や口腔内に装着する補綴装置（全部床義歯、部分床義歯）が生体に及ぼす影響を把握する目的で、高次脳機能活動と自律神経活動から得られる生体反応について学ぶ。特に、咬合違和感を発症する病態について高次脳機能（脳血流量の計測）、自律神経活動（交感神経と副交感神経の活動）、心理面（心理テスト）などのファクターから解説する。さらに、口腔内装置の条件の違い（義歯の材質や設計）について高次脳機能（脳血流量の計測）、自律神経活動（交感神経と副交感神経の活動）、心理面（心理テスト）などのファクターから解説する。

授業科目の学修目標

補綴装置は口腔内という特殊な環境に設定される。特に最終的に咬合を確立する補綴装置の諸条件が生体に及ぼす影響は大きい。本特論では補綴装置と脳機能、自律神経機能の関連性について認識し、さらに反応するホストの心理状態をベースにその理論展開を修得することによって、歯科臨床に応用する一助とする。

授業計画

① 補綴装置の形態と特徴　4コマ　玉置勝司
② 咬合違和感症候群(Occlusal discomfort syndrome)　4コマ　玉置勝司
③ 脳の構造と機能　10コマ　玉置勝司
④ 自律神経活動　10コマ　玉置勝司
⑤ 心理テスト　2コマ　玉置勝司

教科書および参考書

1．咬合のサイエンスとアート（クインテッセンス出版株式会社）
2．カラー版　神経科学　-脳の探求-　（西村書店）
3．脳とこころのプライマリーケア　３こころと身体の相互作用（シナジー）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特論の前には、講義内容を確認をし、事前配布資料にある理論を熟知して講義に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

① 補綴装置の形態と特徴：各種補綴装置の基本的知識を修得する。
② 咬合違和感症候群(Occlusal discomfort syndrome)：咬合違和感の症型分類とその病態について修得する。
③ 脳の構造と機能：脳の構造と機能に関する基本的知識について修得する。
④ 自律神経活動：交感神経と副交感神経の機能に関する基本的知識について修得する。
⑤ 心理テスト：各種心理テストに関する基本的知識について修得する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

Ⅰ.口頭試問は、授業計画の5項目について行った講義の知識の理解度を判定する。10%×5回＝50%
Ⅱ.レポートは、授業計画の5項目について課題を提出する。10%×5回＝50%

理想的な達成レベルの目安

Ⅰ.Ⅱ.の総合で理想的な達成レベルは80%以上とする。